科目ナンバリング							
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：身近な気象の変化を科学する ILAS Seminar : Sciences in Everyday-life Weather Changes			担当者所属 職名・氏名	防災研究所　教授　　石川　裕彦 防災研究所　教授　　竹見　哲也		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	受講定員 (1回生定員)	8 (8) 人	配当学年	１回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	理学部1号館462室 (北部構内)			使用言語	日本語
キーワード	気象 / 気象災害 / 防災						

[授業の概要・目的]

地球温暖化に関連して、竜巻やゲリラ豪雨、台風や爆弾低気圧など様々な気象情報がマスメディアを通して君たちの目の前に呈示されています。ともすればセンセーショナルに取り上げられがちな異常気象を、科学の目を通して冷静に見つめ、異常気象や地球温暖化、これらに伴う気象災害を「正しく恐れる」視点を学生諸氏に体得してもらうことが<身近な気象の変化を科学する>の目的です。

簡単な計測器で気温や気圧雨量などを測ったり、インターネットから取得した情報を使ってグラフを書いたり簡単な統計量を計算して、自らの作業を通して身近な地域の気象の変化を実感してもらおうと思います。また、海外のインターネットの科学記事を探して海外の異常気象を調べたり、海外の気象サイトからデータをダウンロードして外国の気象を調べたりすることも考えています。気象情報解析の体験を通して、マスメディアのフィルターを通してではなく、自分で調べ、確かめて真実に迫る態度を、理系・文系を問わず涵養できれば良いと思います。

[到達目標]

・さまざまな気象情報の取得方法を理解する
・取得した情報の処理方法を理解する
・気象や気象災害に関して、自分で調査して「正しく恐れる」能力を涵養する

[授業計画と内容]

以下のテーマから数テーマ選び、１テーマあたり２－３回で進めていきます。学生からのテーマ提案も歓迎します。

・ 気象を測る（簡単な計測器を用いて身近な気象を測る）
・ 上空の風や気温を測る
・ 外国の天気を調べる
・ 日本の竜巻と米国のトルネードを調べる
・ 自分の出身地や居住地など身近な地域の気象の変化を調べる
・ 身近な地域の気象災害を調べる
・ 気象予報はどの程度あたるのかを日々の予報から調べる

試験に代えてプレゼンテーションを行います。セミナーで扱ったテーマの中から一つを選択して、オリジナルな内容を含む調査結果を報告してもらいます。

ILASセミナー：身近な気象の変化を科学する(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー ：身近な気象の変化を科学する(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（出席状況）８０%、プレゼン２０%

[教科書]

使用しない
テーマごとに資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に渡す資料に目を通す程度の予習を期待します。

[その他（オフィスアワー等）]